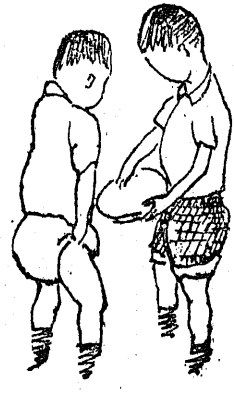
幼兒の文字に對する關心

文部省調査局　村上米子

一

就學前幼兒の教育に關しては、各方面から種々の研究が爲され、次第にその成果も擧げられて來ているが、幼兒の「文字」に對する關心と云うことも既に之を採り上げて十分に研究し、適切なる方策を考え出さねばならなくなつて來ているのではなかろうか。もとより就學前幼兒の相當數が文字に關心を持つているからといつて、又幼兒の能力から見てこの年令期に文字を學ばせる事が可能であるからと云つて、それだけの意味から文字を學ばせるべきか否かという事を論ずる事は出來ない。この事は直に幼稚園義務制、學齡問題等に關係して來るからである。然しとにかく幼兒の文字に對する關心がどの程度であり、現在の諸事情の下で如何なることが見られるかという事については、出來るだけはつきりと知つておきたいものである。昭和二十一年四月の新入學兒童の文字知識に關する若干府縣についての文部省調査局の調査によれば、文字知識を全く缺く者は大都市において一六%、中小都市では三〇%、僻陬な村落では四八%という結果であつた。之は終戰直後の調査であり、經濟、文化その他の復興を見つゝある現在に於ては、この比率は一層ひくめられていると思われるが、こゝに報告しようとする調査は、右の例を見ても新入學兒童の八四%乃至五二%が文字の知識を持つていたのであるから、更に之が就學前六ケ月頃にはどの程度であるかを見ようとするものである。即ち翌年四月入學豫定の幼兒の十月現在の文字知識の狀況である。しかしこの調査は主として一つの幼稚園の幼兒についてなされ、その人員もわづか七四人（男女共夫々三七人）という少數であることから、これで凡てを推す事の出來るものでないという事は當然で、幼稚園兒における一つの事實として生活環境等をも併せ紹介しつゝ一應その結果を述べてみようと思う。今後幼兒の文字知識に關して一層適確なる調査研究が進められることを希むものであるが、もしこの小さな調査報告が幼兒教育者に對して幾



分でも參考になれば幸と思う次第である。

二

本調査は昨昭和二十三年十月一日現在行つたもので、所定の調査表を園兒の家庭に配布し、一週間以内に保護者の記入を求め、その回答によつて之をまとめた。調査の對象としたのは港區某公立幼稚園と豐島區某私立幼稚園とであつたが、前者とは連絡上の不手際のために所要の回答が得られず、こゝでは主として後者について述べる。調査の對象となつた豐島區私立某幼稚園兒は昭和二十四年四月小學校入學の豫定の幼兒で前述の如く七四人、この私立幼稚園は師範附屬小學校等特殊學校を希望する家庭の幼兒が比較的多く、その家庭の職業をみるに會社事務（會社員會社社長等）が四一・九%で約半數、之に次いで公務、教育に從事するもの二一・七%、工業一二・一%、商業一〇・八%、自由業八・一%、無職等二・七%の順で、會社事務及び公務、教育を加えると約六三%で之を一應所謂知識層に屬するものと考えれば約半數以上が之に屬しているわけで幼兒の知識的環境はやゝ高いレベルにあると考えられるであろう。家庭内の家族構成についてみると、兩親及び兄姉弟妹を有するもの及び兩親と弟妹をもつものが夫々約三〇%で兩者で約半數以上を占めその他は兩親及び兄姉をもつものが一八・九%、兩親のみのもの一四・九%、母のみ乃至母と弟妹をもつものが五・四%となつている。最後の二者即ち父を缺くものはわづかに五・四%でその他の大部分即ち約九五%は兩親の揃つているものであり、幼兒の家族的環境も可成良好であるという事が云えるであろう。

次に幼兒の文字關心乃至知識に對して書籍、新聞等が直接の刺戟となり影響を持つと考えることが許されると思うが、之についてみると家庭でとつている新聞は一家庭平均二・四種、雜誌は毎月とつている家庭が七三%でその平均冊數は三冊である。雜誌を毎月とらぬ家庭には全然とらぬ者約一六%と不定に求めるもの〻二通りがみられた。毎月とつているとする七三%の家庭の雜誌の内容は婦人雜誌が多く約半數を占め、次いで綜合雜誌、青少年兒童雜誌が夫々一二・三%、趣味娯樂雜誌、學術專門雜誌が夫々約一〇%等となつている。單行本はほとんどすべてが求めているが一年で一家庭平均三七冊强で一月にすると三冊强となる。單行本について港區某幼稚園の結果は一年一家庭平均一六冊であつたからこれに比すと約倍以上という事になる。

次に幼兒の繪本及び雜誌はすべて之を所有するもの又はとつている者で、繪本では一人の所有數は最高一三〇冊から最低二冊迄でその平均は一人二八・二冊（男子平均三〇・八冊、女子平均二五・六冊）雜誌はこの幼稚園においては「キンダー・ブック」を推薦しているとのことで、全幼兒が之を毎月とつていた。その他には不定にあたえるもの（但し雜誌なるや否や不明）他の雜誌もあたえているもの等でその數からみると全員の約半數四一・九%は一種と他に不定に何かあたえるもの、次いで一種のみのもの三三・七%で更に二種から四

種迄のものが之につゞき四種は約三%であつた。以上からみて家庭としても相當に書物等を購入しているし、幼兒の本としても全幼兒が一種は毎月雜誌をとつているから、これらが幼兒の文字知識にも可成り大きな關聯性のあることが考えられるのではなかろうか。

對象となつた幼兒の年令は調査の現在で最少が五歳六月、最長は六歳七月で六歳前後が最も多く約六〇%であつた。

三

以上が調査對象幼兒に關する諸條件の概略であるが、こゝで本題に入つて行こう。

第一表

		四十八字全部	二十字以上	十九字以下	姓名のみ又はその程度	なし	得ぬ者	合計
片假名	百分比	一四・九	八・二	九・四	三三・八	三三・八		一〇〇
	平均字數	四八	三三	二	六	〇		三
平假名	百分比	三・七（四・九）	一六・一	三・七	三・一	九・四（五・四）		一〇〇
	平均字數	四八	三〇	二	六	〇		一九

備考 括弧内は片假名、平假名兩者に通じる數である。

先づ讀む事についてみると第一表にみられる通りで、片假名は少しも讀めぬ者が三三・八%で約三分の一、可能のものは姓名程度の者が同じく三三・八%、次いで四十八字全部讀むものが一四・九%、十九字以下が九・四%、二十字以上が八・一%であつて、總員の一人平均可能字數は一三字となつている　之に比し平假名は全然讀めぬ者はわづかに九・四%で讀む者は約九〇%を占めている。可能の者の内譯は、姓名程度讀む者が三一・一%、四十八字全部を讀む者及び十九字以下を讀む者が夫々二一・七%、二十字以上が一六・一%で一人平均可能字數は一九字となつている。以上即ち片假名に比して平假名がよく出來る事は、この幼稚園においては自己の姓名程度は平假名で讀み得る樣にと望まれているとの事であるのでその故と、小學校においては平假名を主としている事から家庭その他周圍が平假名を先づ考えている故とかう理解されるであろうが、人員からは片假名と平假名は相當に差が見られても、字數からはそれほどの差は見られぬし（片假名一三字平假名一九字）又片假名をすべて讀む者となつている事が注目される。即ち文字が認識されるとその習得は早いし、又片假名の習得の方が幼兒にとつて可成容易であるとい

第二表　男女別（百分比表）

		四十八字全部	二十字以上	十九字以下	姓名のみ又はその程度	なし	得ぬ者	合計	一人平均字數
片假名	男子	一六・二	八・二	八・二	三三・四	三五・二		一〇〇	一三
	女子	一三・五	八・二	一〇・八	三五・二	三三・四		〃	一三
平假名	男子	二七・〇（六・二）	一〇・八	一六・二	三五・二	一〇・八（五・四）		一〇〇	二〇
	女子	二一・七（一三・五）	二七・〇	一六・二	二七・〇	八・一（五・四）		〃	一八

備考 括弧内は片假名平假名兩者に通じる數である。

えるのではなかろうか。

次に讀む事について男女別に之を見る。（第二表參照）

第二表により男女に少しく差のある事が知られる。即ち片假名、平假名共に全然讀めぬ者に男子が多くなつている。之を可能な者について見ると、四十八字全部を讀む者では片假名平假名共に男子が多く、又平假名で姓名のみ又はその程度の者にも男子が多くなつているが、その他は人員はすべて女子に多い。しかし之を字數からみると一人平均字數は片假名では同數であるが、平假名は男子に二字多く、程度からは女子より男子がやゝすぐれている事が知られる。

四

書く事は第三表の通りである。

第三表

		四十八字全部	二十字以上	十九字以下	姓名のみ又はその程度	なし	得ぬ者	合計
片假名	百分比	八・二	八・二	九・五	二五・七	四・六		一〇〇
	平均字數	四八	二九	三	六	〇		九
平假名	百分比	一〇・九（八・一）	三・二	二九・七	二九・七（八・一）	一七・八		一〇〇
	平均字數	四八	二六	三	六	〇		一四

第三表によると片假名ではなし得ぬ者が四八・六%で約半數、次いで姓名のみ又はその程度のものが二五・七%、十九字以下を書く者が九・五%、二十字以上及び四十八字全部を書く者が夫々八・一%である。平假名をみると之は讀む事と同樣片假名より出來る者が多く、少しも書けぬ者は一七・六%で約八〇%が書く事の可能な者であつた。その程度をみると十九字以下を書く者と姓名程度を書く者が夫々約三〇%二十字以上が一二・二%、四十八字全部を書く者は一〇・八%である。片假名平假名兩方を書く者は八%あつて、片假名をすべて書く者は平假名もすべて書いている。又全然書けぬ者も八%で讀む事に比し約三%多くなつている。

書く事を男女別に比較すると第四表にみる如くで、少しも書き得ぬ者は男子に多い事が知られるが、總員の一人平均字數は同字數となつている事から、その程度からは男子にやゝすぐれている事が知られる。讀む事についてもこの事がみられ、この幼稚園兒における男女の差として注目されるのである。

第四表　男女別百分比表

		四十八字全部	二十字以上	十九字以下	姓名のみ又はその程度	なし	得ぬ者	合計	一人平均字數
片假名	男子	一〇・八	五・四	五・四	二一・九	一六・八		一〇〇	九
	女子	五・四	一〇・八	一三・六	二七・〇	四三・二		〃	九
平假名	男子（一〇・八）	一三・五	一〇・八	二四・三	二九・八	二一・六（八・一）		一〇〇	一九
	女子（五・四）	八・一	一三・五	三五・二	二七・二	一六・二（八・一）		〃	一四

以上を讀み書きとしてみるに、第五表にみる通り平假名が片假名に比して多い事が知られる。書く者は讀み得る者と考

第五表

	讀む者	書く者
片假名	六六・二%	五一・四%
平假名	九〇・六%	八二・四%

えられるから片假名では讀み書きする者が五一・四%、平假名は八二・四%で約三〇%平假名に多くなつている。前述の第三表になれば讀み書きを完全にするものは平假名片假名共には八%、平假名のみでは一〇・八%で、全然讀み書きをせぬ者、即ち文字の知識を全く缺く者は五・四%のわづかであつたのである。之を前述の昭和二十一年度における新入學兒童の文字知識を缺く者は一六%であつたから、この幼稚園兒には相當に文字知識の進んでいる事が知られる。

次に家族によつて、例えば兄妹のある場合文字に對する關心が高められることも一應豫想される事であるが、之については、こゝにおいては家族による讀み書き可能に對する影響は全く見られなかつた。かえつて兄姉のある幼兒群に讀み書きを全くなし得ぬ者が入つており、可能の平均字數も可能者總員の平均よりやゝ低くなつていた。唯男子については書き得る平均字數が總平均より可成り高くなつていた。

五

次にこゝに參考のため港區内の一幼稚園の幼兒の讀み書きの程度について大略をこゝに擧げる。

第六表

	男子	女子	計	百分比
イ、全く讀み書き出來ぬ者	六	六	三	一七・九
ロ、姓名のみ讀み乃至書く程度の者	一〇	一四	二四	三五・八
ハ、二十字以讀み書き上する者	二	六	八	二二・〇
ニ、ロとハの中間の者	一〇	一三	二三	三四・三
合計	二八	三九	六七	一〇〇・〇

第六表にみる通りで幼稚園兒としても前幼稚園兒と可成り差のある事が知られる。「全く讀み書き出來ぬ者」でも前園の幼兒の五・四%に比し約三倍の一七・九%で「二十字以上讀み書きする者」の中では四十八字を完全に讀み書きする者は片假名のみで一人（約一・五%）あるのみであつた。又平假名片假名の差は殆んど見られず姓名にやゝ平假名が多くなし得るという程度であつた。

この園の幼兒の家庭についてその職業をみると、商業が一位で四一・八%、次いで工業二五・四%、會社事務一八%、その他約一五%に公務教育・自由業、無職等があつた。この中商業には小規模營業、工業には家具製作業が多かつた。

幼兒が文字に關心をもち、教える事を求める事についてみたところ、先づ教える事を求めている者は總員の八五%であつた。そして教える事を求める相手は母を含む者がその中の八四%で、その他の中には女兒に祖母に求める者、男兒にだ

れにでもというものが夫々三・二%のごくわづかであるがあつた。教える事を求めた年令は滿四歳を最少とし六歳五月を最長としているが五歳臺が六八%を占め、その中間數は五歳四・一月となつている。男女の差はみられない。

次に家庭において幼兒に文字を教えているか、であるが、總員の約八四%は家庭で文字を教えていた。この教えた時をみると、教える事を求めた時すぐ教えはじめたものが四五%、求めたがその後になつて教えたもの三一%、求める以前に教えているもの七%で、「教える」という事の解釋も多々あるとは考えられるが、一應家庭からの回答のまゝでは以上の樣であつた。尙「教えることを求める」「教える」「若干以上讀める者」「若干以上書ける者」の比率をみると八五・一%、八三・八%、九四・六%、九一・九%である。右に於て「教える」の中には求める以前に教えるもの六・八%も含まれているから「教えることを求めている」のに教えていないものが若干存在する事を知る一方「教える」乃至「教える事を求める」が八〇%臺であるのに「若干以上讀み又は書く者」が共に九〇%臺であることから、何人かは家庭の保護者の視界外で教えを求め又教わる事實のあることを想像させる。

教えた年令は最少が四歳二月で最長は六歳五月で男子は女子に比してやゝ遲く教えたことがみられた。その中間數は五歳六・四五月で之を、教える事を求めた年令の中間數と比較するとほゞ二ケ月遲くなつている。

六

次に教える人についてみるとそのうちの半數以上六四五%は父母と兄姉乃至その他で次いで母が二九%、その他の六・四%は父兄姉祖母等で六・四%以外の者卽ち大部分の九三・六%は教える人に母が入つている事は注目される。

幼兒の文字に對する關心の程度は、環境等によつてその差を生じると考えられるが、この事についてこの幼稚園兒に之を片假名平假名共に四十八字全部を讀み書きする者と、全然なし得ぬ者の比較によつてみれば第七表の通りであつた。

第七表によると兩者に一二の差をみる事が出來る。例えば家庭において「幼兒に文字を教える人」は讀み書きを完全にする者にはすべて父が含まれ、全然なし得ぬ者には父が含まれていない事である。父が教えるという事は母の場合に比して相當教えるという意識のもとに教えている事が想像されるのではあるまいか。次に幼兒の繪本・雜誌、家でとつている新聞・雜誌についてみれば、すべて全部を讀み書きする者に多くなつており、これらが文字についても幼兒に影響をあたえているという事は斷言出來ると思われるのである。

要するに家庭の文字に對する積極的態度と環境とが相俟つて兩者の差を生む因子の一つとなつていることは認めるべきであろう。

以上が調査結果の概略であるが、こゝで對象とされている幼兒の特殊性からいつて之を以て一般を推すことは出來な

第七表

	年齢	教える事を求めた年齢	教えた年齢	家族	家で教える人	家でいつも相手になる人	幼兒の繪本	幼兒の雜誌	大人の讀む本（一年）	家でとる新聞	家でとる雜誌	職業
字八十四に共名假片・名假平												
者すなをきき書み讀部全												
子	五歳九月五歳五歳			父母妹父母父母		六	一	一〇〇	三			公務・教育
子	五歳一一月四歳五月四歳五月			父母姉父母姉母姉		五〇	二	五〇	三	三	三	工業
男	六歳三月四歳四歳三月父母父母			父母父母		八〇	二	三〇	三	二	九	自由業
男	六歳三月五歳六月五歳六月父母兄弟父母兄父母			父母兄弟父母		一五	二	三六	二	二	三	公務・教育
子	六歳一月五歳一月五歳八月			父母祖母姉弟父母母母祖母		三	二	二〇	二	二		會社員
女	六歳四月五歳五歳			父母祖母弟妹父母祖母〃		一五	二	二七	四			會社員
平均							一九・六	一・八三	四〇・五	二・八	二・五	
者ぬ得しなし然全												
子	五歳一二月五歳六月五歳一〇月			父兄姉妹母母母		七	二	三〇	一	二	二	會社員
男	六歳一月			父母兄姉母姉		一五	二	六〇	二	四		會社員
子	六歳二月五歳七月六歳			父母兄弟母妹母兄		一五	一	六	三			公務・教員
女												
平均						三・三	一・七	三一・〇	二・〇		二・〇	

い。然しともかくも新入學以前約半ケ年前に於て幼稚園兒の五〇%以上が文字について若干以上の知識を持つている事實のあることは問題として採上げられるべきであろう。そしてかような調査が更に廣い範圍にわたつて行われることを切に希むものである。

御知らせ

本誌二、三月合併號（日本保育學會第一回大會特輯號）を御希望の方はフレーベル館には殘品ありませんから、**東京都港區盛岡町一ノ五愛育研究所**に多少殘品ありますから同所宛御申込下さい

（一部四五圓、送料三圓）